

# 人、そして地域がつながり

## 輝き続ける 潤いのまち

### 施策の柱「人づくり」

#### 子育てしやすい

#### 環境づくり

幼児教育・保育に関するサービスについては、  
遺贈寄附金を活用したすくすく「白鷹っ子」子育て応援事業により、各園における子どもの成長を支える環境づくりを進めていきます。

利用ニーズが高まっている学童保育については、東根小学校内に公設民営型の放課後児童クラブを開設し、安定したサービス提供体制を確立します。

人口減少対策の一つでもある「結婚支援」については、結婚新生活に対する支援事業を拡充し、対象要件の緩和や居住費等の助成額の引き上げに加え、新たに新婚世帯に地域電子マネーを贈呈する取り組みを実施します。

#### 教育の充実

子どもたちが社会の変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測困難な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。

学校教育においては、GIGAス

クール構想を本格的にスタートさせます。これは、いわば「未来の教室」の姿であり、デジタル教科書導入の検討を進めていくほか、学校や家庭で児童生徒の日常的な情報通信機器を使った学習がスムーズにそして効果的に行われるよう、ICT支援員の配置による授業支援や、教職員向けの活用研修等を実施することで、急速に発達するICT社会に対応できる能力を育成していきます。

そして、子どもたちをはじめ学校を取り巻く環境や課題が複雑化・多様化する中で、地域住民や保護者等が学校の運営に積極的に参画することによって、より良い学校づくりが期待される学校運営協議会制度を導入し、各小・中学校においてコミュニケーションスクールとして取り組んでいきます。

#### 地域の担い手の育成

荒砥高校では、魅力ある学校づくりに向け、地域・高校・行政・有識者等で構成する地域連携協議会が策定する「荒砥高校魅力化計画」に基づく取り組みを推進するため、新たに魅力化コーディネーターを配置し、荒砥高校の特色を活かした、小規模校ならではの魅力づくりを進めていきます。

文化財関連については、白鷹町歴

史民俗資料館の開館に向けた準備を着実に進め、日本の紅（あか）をつくる町拠点施設等と連携しながら、歴史と文化の発信拠点として皆さまに親しまれる施設を目指していきます。

### 施策の柱「産業・経済」

#### 農業の振興

国の経営所得安定対策の取り組みとともに、持続可能な産業としての農業の振興に努めていきます。魅力ある町産農産物や資源を活用した6次産業化を推進するため、スモールビジネスに取り組みやすい環境を整備し、農業所得の向上や雇用の確保につなげ、地域経済の循環を図るための取り組みを推進していきます。

食育・地産地消については、改定する食育・地産地消推進計画に基づき、家庭で食や農を体験する取り組みとして、家庭菜園の普及促進に努めていきます。

農業生産基盤の整備を進める土地改良事業については、新たに広野下川原地区の基盤整備に取り組み、安全・安心の確保や農業経営の安定化と効率化を支援していきます。



令和3年度

# 施政方針と予算

**第6次総合計画の前期基本計画の2年目となる令和3年度は、新たな過疎対策としての「過疎地域の持続的発展」、そして、SDGs<sup>※</sup>の視点を踏まえつつ、新たな将来像の実現に向け、白鷹大橋の完成に象徴される一体化・中央拠点化による都市軸と、各地域拠点を同心円状に捉えたコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの考え方を基本に、各分野の施策のうち、「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」の4つの分野を施策の柱として着実に進めます。特に、引き続き人口減少対策として、未来につながる暮らしを大切にすため、本町版「職住育近接」の実現に向けた取り組みを本格化することで、定住人口を確保していきます。**

このほか、新型コロナウイルス感染症に対応した「新たな日常」の実現に向けた対応や、令和2年7月豪雨災害からの復興を最優先に進めることで、誰もが安心して生活でき、持続可能で、「潤い」=充足感を感じることができるまちづくりを目指します。

※SDGs…「(Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標」のこと。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標がある。

## 主な重点施策

### ① 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症は、今なお、世界中で猛威を振るっています。未だ収束は見通せない状況ですが、引き続き感染拡大防止と経済回復に、令和2年度予算と連動させ、総力を挙げて取り組んでいきます。

まずは安心を取り戻すため、新型コロナウイルススワクチン接種について、町立病院を中心に町内各医療機関との協働体制を図りながら、確実に取り組んでいきます。

また、経済対策として、既に実施

している利子補給等による金融面での支援や、事業継続雇用維持給付金の給付、地域応援券の贈呈などのほか、今後の経済の状況に応じ、地域経済回復に向け、国策とも連携し機動的な対応を図っていきます。

### ② 行政のデジタル化

新型コロナウイルス感染症の拡大により、浮き彫りとなったデジタル化・オンライン化の遅れなどの課題・リスクに的確に対応するため、国の動向を注視しながら町の推進方針を策定するとともに、RPA等のデジタル技術を積極的に活用し、行政のデジタル化を計画的に推進していきます。

### ③ 令和2年7月豪雨災害復旧

令和2年7月27日から29日にかけての豪雨により、町内に甚大な被害を受けました。被災箇所は計400箇所以上、被害総額は約14億円を超える状況ではありますが、国庫補助を最大限に活用し、令和2年度予算と連動しつつ、早期の復旧・復興に向け全力で対応していきます。

特に、国道348号滝野地内の被災箇所については、現在も片側交互通行規制により、ご不便をおかけしているところであり、一日も早い復旧となるよう、国県等の関係機関に強く働きかけていきます。

### ④ コンパクト・プラス・ネットワーク

令和3年度においては、先駆けとして、地域拠点の一つである鷹山地域の拠点整備に向けた対応のほか、人口減少社会において、今後、ますます重要な役割を担う町立病院および健康福祉センターを核とした、第2期健康と福祉の里構想の推進、県都山形市と本町を繋ぐ重要な路線である国道348号の再整備に向けた取り組み、公共交通の利便性向上のため、デマンド交通を活用した生活交通ネットワークの構築に向けた取り組みを実施していきます。